

令和3年度 京都大学一般選抜  
出題意図等

国語（理系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般入試学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

## 理系

### 出題意図（問題一全体）

哲学的・実存的思索に裏打ちされた随筆の読解を通して、一つの経験から反省的に深められていく筆者の思索の行程を正確にたどり、文全体の趣旨を的確に理解する力、およびその理解を明確かつ適切な仕方で表現する力を問う。

### 出題意図（個別問題）

問一：友人の言葉が私にとって「忘れ得ぬ言葉」となった理由について、筆者の思考の動きを正確に理解し的確に表現することを求める。

問二：「罪のない」こと自体の罪という筆者の反省について、このような反省をもたらした経緯を正確に読み取り、その理路を明確に説明することを求める。

問三：自らが「世間知らず」であるという筆者の自覚の意味変化について、筆者の説明からその内容を正確に把握し、適切な言葉で表現することを求める。

問四：「生き身の人間の口から自分に語られた」言葉に筆者が見てとる特性を十分に把握した上で、その理解を筆者の経験との連関の中で十全に表現することを求める。

### 出題意図（問題二全体）

問題文は、定型詩たる短歌の音数律および定型詩そのものの性質を論じた論説文である。著者の主張の根拠や文章の論理展開を正しく読み取った上で、理解した内容を論理的かつ的確に表現し得るかを問う。

### 出題意図（個別問題）

問一：筆者が短歌の音数律というものは日本語の日常語から自然に引き出されたものではないと主張する具体的な根拠を、文章の中から正確に読み取り、的確に表現できるかを問う。

問二：傍線部のような考えに対して、筆者は定型詩型が本質的に備える性質の点から反対している。その具体的な内容を的確に読み取り、的確に表現できるかを問う。

問三：文章の全体の内容を踏まえた上で、傍線部内の「彼の全教養をあげて」「忠実たらんと努めている」が具体的にどのようなことを指しているのかを明確にしつつ、傍線部の内容を的確に説明し得るかを問う。

### 出題意図（問題三全体）

本問は、室町時代の歌論書を題材に、古典文法と古語に関する基本的な知識に基づいて、古文の原文を正確に読解し、的確に説明する力を問うものである。

出題意図（個別問題）

問一： 文脈と指示語を理解し、必要な言葉を補いながら、適切な現代語に訳すことを求める。

問二： 傍線部の意味を理解した上で、その理由となる部分を見出し、適切に説明することを求める。

問三： 傍線部の意味を理解した上で、文章全体の内容をふまえて、その理由を適切に説明することを求める。